

**令和8年度中小・小規模事業者DX着手支援業務
公募型プロポーザル選定委員会 議事要旨**

項 目	内 容
1	審査期間 令和8年3月19日～令和8年3月23日
2	場 所 書類審査のため、各委員に持ち回り
3	出席委員 商工労働局 地域経済支援担当部長 総務局 DX推進課長 商工労働局 東部産業支援センター長（代理：東部産業支援担当 主査） 商工労働局 イノベーション推進チーム担当課長（地域産業デジタル化推進担当） 商工労働局 経営革新課担当課長
4	議 題 令和8年度中小・小規模事業者DX着手支援業務公募型プロポーザルに係る第1次審査（書面審査）について
5	担当部署 商工労働局 経営革新課
6	開催方法 持ち回り
7	議事内容 選定委員会において、提出された企画提案書を基に書面審査を行い、得点が上位の3社を第2次審査（プレゼンテーション審査）の対象として選定した。 O社：アデコ株式会社 S社：FunTre株式会社 H社：株式会社Cキューブ・コンサルティング I社：株式会社パソナJOB HUB T社：NTTドコモビジネス株式会社 各選定委員の主な評価・選定理由については、次のとおりである。 【O社】 ・ 実務を意識した構成で安定感があり、各業務の提案内容が具体的である。また、業務全体のフローも事業が円滑に進むよう設計されており、効果的・着実な推進が大変期待できる。 ・ ツール導入ありきの失敗を防ぐため、現場業務の可視化・細分化から入るアプローチは実効性が高いと評価できる。 ・ 参加事業者の選定プロセスにおいて、経営層の関与予定、課題の因果説明力などを細かく点数化するスコアリング基準を設けており、実装可能性の高い優良事例を確実に見極めることが期待できる。

【S社】

- ・ ターゲットリストによる 2,000 社以上の直接勧誘や多様な媒体を活用した広報戦略により、高い集客が期待できる。
- ・ 企業の現状を把握する診断ツールの提供やオンデマンド学習プログラムなど、自由提案が充実している点は評価できる。
- ・ 一方で、参加企業の確保についてのターゲティングの考え方や、フォローアップ支援の具体性等、実行段階を見据えた設計にやや弱さが見られ、成果創出に向けた懸念が残る。

【H社】

- ・ 全体的にバランスよくポイントを絞った提案がされており、事業の効率的・着実な推進が期待できる。
- ・ 地域金融機関のネットワーク（13,000 先超）や、閲覧数の多い媒体を活用した広報戦略により、集客目標の達成に説得力があり、取組の広がりや波及効果が見込まれる。
- ・ フォローアップにおいては、過去の実績やパレートの法則から 100 を超える支援候補事業者を確保可能と試算しており、次年度への波及効果が期待できる。
- ・ 業務の目的を理解した提案となっているが、参加事業者の選定プロセス等についてはさらに確認したい点がある。

【I社】

- ・ 全体として具体性と実現性のバランスが取れており、経営戦略と連動した人材戦略の観点からDXを支援する姿勢が高く評価できる。
- ・ 中小企業家同友会や商工会議所と連携した共催型セミナーの実施や、普及啓発イベントの追加開催、参加企業間のコミュニティ形成など、事業者のモチベーション維持等に向けた工夫が盛り込まれている。
- ・ 参加企業候補のリストアップや支援内容などについて具体的に提案されている点は評価するが、実施スケジュールにおいて伴走支援期間が前半の短期間で設定されており、支援効果の発現について少々不安が残る。

【T社】

- ・ 中小企業の心理的ハードルを下げるため、身近な業務から始めるスモールウィンを重視した設計が評価できる。
- ・ 自社および代理店が抱える約 3,000 社の中小企業アカウントに対する直接的なアウトバウンドコールや対面営業を計画に組み込んでおり、集

		<p>客が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none">• 全体的にコンパクトかつ明確な提案内容であった点は評価するが、伴走支援をはじめとする各業務内容について実行性の面で具体性が不足しており、成果創出に向けた見通しがやや不透明である。
--	--	--

**令和8年度中小・小規模事業者DX着手支援業務
公募型プロポーザル選定委員会 議事要旨**

項 目		内 容
1	日 時	令和8年3月26日 13時30分から16時20分まで
2	場 所	オンライン
3	出席委員	商工労働局 地域経済支援担当部長 総務局 DX推進課長 商工労働局 東部産業支援センター長（代理：東部産業支援担当 主査） 商工労働局 イノベーション推進チーム担当課長（地域産業デジタル化推進担当） 商工労働局 経営革新課担当課長
4	議 題	令和8年度中小・小規模事業者DX着手支援業務公募型プロポーザルに係る第2次審査（プレゼンテーション審査）について
5	担当部署	商工労働局 経営革新課
6	開催方法	オンライン
7	議事内容	<p>選定委員会において、提出された企画提案書を基にプレゼンテーション審査を行い、第1次審査及び第2次審査の結果、最も得点が上位の提案者を最優秀提案者として選定した。</p> <p>○社：アデコ株式会社 H社：株式会社Cキューブ・コンサルティング I社：株式会社パソナJOB HUB</p> <p>各選定委員の主な評価・選定理由については、次のとおりである。</p> <p>【○社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実務に即した構成で安定感があり、現場の実態を踏まえて十分考慮され設計されていることから、事業の効果的・着実な推進が大変期待できる。 ・ ツール導入ありきの失敗を防ぐため、現場業務の可視化・細分化から入るアプローチは実効性が高いと評価できる。 ・ 参加事業者の選定プロセスにおいて、スコアリング基準を設けており、実装可能性の高い優良事例を確実に見極めることが期待できる。 ・ 経営指導員と上手く歩調を合わせることで成果が期待できる一方、タイトなスケジュールになった際の進行にやや懸念を感じる。

	<p>【H社】</p> <ul style="list-style-type: none">• 全体的にバランスよくポイントを絞った提案がされており、事業の効率的・着実な推進が大きく期待できる。• 地域金融機関の広範なネットワーク等を活用した広報戦略により、集客目標の達成に説得力がある。• フォローアップにおいて過去の実績等から 100 を超える支援候補事業者の確保が可能と試算しており、次年度への波及効果が期待できる。• 一定の成果創出が見込まれる内容となっているが、実施段階における運用面や、支援機関等へのアプローチが繁忙期と重なるスケジュールにやや懸念がある。 <p>【I社】</p> <ul style="list-style-type: none">• 課題設定から支援、成果創出までの流れが具体的に設計されており、特に普及啓発イベントの開催・運営等において強みを感じる提案である。• 単なるツール導入に留まらず、経営戦略と連動した人材戦略の観点からDXを支援する姿勢が高く評価できる。• 各種団体と連携した共催型セミナーの実施など、事業者のモチベーション維持等に向けた工夫が盛り込まれている。• 過去の実績において団体や登壇企業の知名度で集客できている面もあり、本事業における集客の実現性や、実施スケジュールの設定等について少々不安が残る。
--	---